

平成25年度 第1回栃木県公共事業評価委員会

日時：平成25年8月5日(月)14:00～

場所：栃木県庁本館6階 大会議室1

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 栃木県が実施する公共事業の評価について . . .【資料1】

《議 事》

4 栃木県県土整備部所管事業及び宇都宮市所管事業の再評価について

(審議案件) . . .【資料2】

(1) 河川事業

ア 一級河川江川(烏山) 那須烏山市(県事業) . . .【資料3-1】

イ 準用河川西川田川 宇都宮市(宇都宮市事業) . . .【資料3-2】

(2) 道路事業

ア 一般国道400号 下塩原バイパス(県事業) . . .【資料4-1】

イ 一般国道408号 宇都宮高根沢バイパス(県事業) . . .【資料4-2】

(3) 街路事業

ア 宇都宮都市計画道路3・2・101号 大通り 宇都宮市(県事業)

. . .【資料5】

5 閉 会

平成 25 年度

栃木県公共事業評価委員会 委員名簿

委員	いけだ ひろかず 池田 裕一	宇都宮大学工学研究科准教授
委員	おくもと まさゆき 奥本 雅之	栃木県経済同友会理事
委員	かとう さちこ 加藤 幸子	栃木県女性団体連絡協議会事務局長
委員	たさか としあき 田坂 聡明	宇都宮大学農学部教授
委員	たむら たかひろ 田村 孝浩	宇都宮大学農学部准教授
委員	ねもと ともこ 根本 智子	弁護士（栃木県弁護士会）
委員	やなせ のりひこ 築瀬 範彦	足利工業大学工学部教授

（敬称略 五十音順）

栃木県が実施する公共事業の評価システムについて

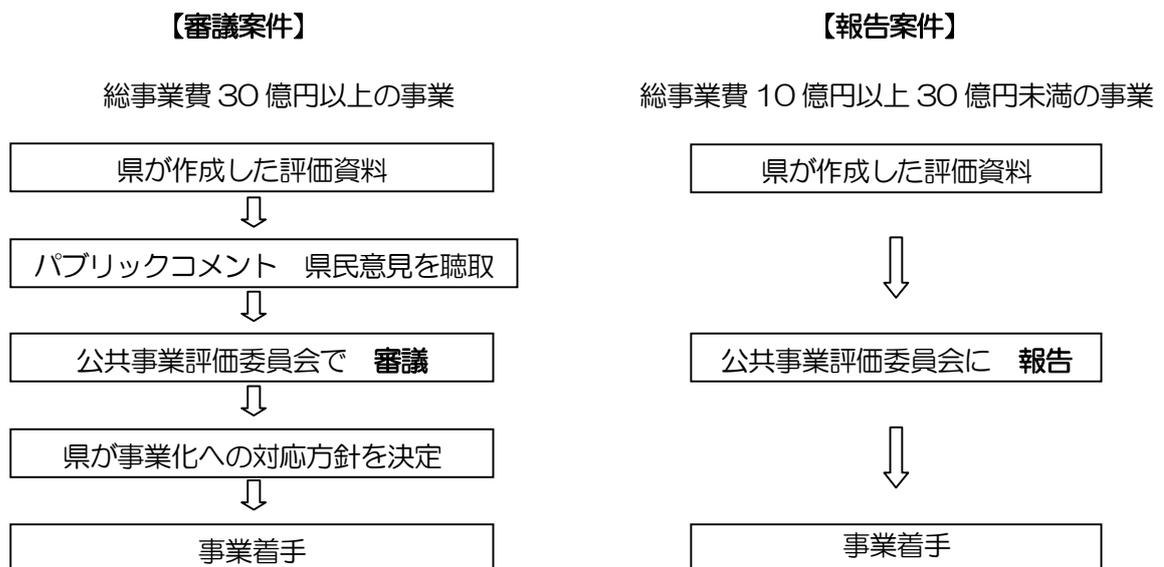
1. 概 要

栃木県（環境森林部・農政部・県土整備部）が実施する公共事業の効率化、重点化を図るとともに、県民に対し実施プロセスの透明性を高めていくため、事業着手前、事業着手後長期経過時、事業完了後の各時点において評価を行うシステムである。評価に当たっては、公共事業評価委員会（外部委員会）において審議（報告）するとともに、結果については県ホームページ等を通じて県民に公表する。

2. 事前評価システム（H14. 4. 1～）

県民生活に与える影響が特に大きい公共事業の計画段階において、県民の幅広い意見を聴取しながら、公共事業評価委員会の審議（報告）を経て、事業推進の必要性や妥当性をあらかじめ評価する。

対象事業：県が実施する公共事業のうち、内部評価を実施した総事業費 10 億円以上の事業



3. 再評価システム（H10. 12. 1～）

事業採択後一定期間を経過して未着手や継続中の事業等について、公共事業評価委員会の審議を経て、事業の継続、見直し、中止など事業執行に反映する。

対象事業：県が実施する国庫補助事業、交付金事業及び総事業費 10 億円以上の県単独事業

- ①事業採択後、一定期間が経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後、長期間が経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後、一定期間が経過している事業

4. 事後評価システム（H20. 4. 1～）

完了した事業について、その事業実施の効果等について確認を行い、公共事業評価委員会の報告を経て、必要に応じて、適切な改善措置の検討や今後実施する同種事業の計画等に反映する。

対象事業：県が実施した公共事業のうち、総事業費 10 億円以上の事業

平成 25 年度 公共事業評価委員会の年間予定

第 1 回 公共事業評価委員会（県土整備部関係 再評価）

日 時： 8 月 5 日（月） 14：00～17：00（予定） 場 所：栃木県庁 本館 6F 大会議室 1
 道 路 （国）400 号 下塩原バイパス
 道 路 （国）408 号 宇都宮高根沢バイパス
 河 川 一級河川江川（烏山）那須烏山市向田
 河 川 準用河川西川田川 宇都宮市西川田町
 街 路 宇都宮都市計画道路 3・2・101 号 大通り 宇都宮市 審議案件 5 件

第 2 回 公共事業評価委員会（県土整備部 事後評価）

日 時： 9 月 9 日（月） 14：00～17：00（予定） 場 所：栃木県庁 本館 6F 大会議室 1
 道 路 （国）123 号 茂木バイパス
 道 路 （一）雀宮真岡線 宮岡橋
 道 路 （主）栃木二宮線 大道泉橋
 道 路 （主）栃木佐野線 小野寺工区
 砂 防 一級河川 大谷川 日光市中宮祠
 街 路 小山栃木都市計画道路 3・5・101 号小山結城線外 1 小山市本郷町
 街 路 黒磯都市計画道路 3・3・2 号黒磯那須北線 那須塩原市豊浦、上厚崎
 街 路 足利佐野都市計画道路 3・4・2 号黒袴迫間線 佐野市若松町 報告案件 8 件

第 3 回 公共事業評価委員会（県土整備部・環境森林部・農政部関係 事後評価）

日 時： 10 月 21 日（月） 14：00～17：00（予定） 場 所：栃木県庁 本館 6F 大会議室 2
 河 川 一級河川荒川（栃木）栃木市箱森町
 河 川 一級河川卷川 大田原市上奥沢
 治 山 水源森林総合整備事業 松木 日光市
 農村整備 農業集落排水事業 福良 小山市
 農村整備 中山間地域総合整備事業 泉 矢板市
 圃場整備 圃場整備事業 小貝川西 真岡市
 圃場整備 圃場整備事業 栃木市西部 栃木市
 圃場整備 圃場整備事業 赤津南部 栃木市
 圃場整備 畑地帯総合土地改良事業 清原南部 宇都宮市 報告案件 9 件

第 4 回 公共事業評価委員会（県土整備部関係 事前評価）

日 時： 11 月 8 日（金） 13：30～16：30（予定） 場 所：栃木県庁 本館 6F 大会議室 2
 現地調査 9：00～12：00 真岡南バイパス（予定）
 道 路 （国）119 号 御幸町工区
 道 路 （一）下野壬生線 小金井工区
 道 路 （一）小山下野線 喜沢工区
 道 路 （主）宇都宮那須烏山線 田野倉工区
 道 路 （一）柏倉葛生線（東部幹線） 築土工区 報告案件 5 件

第 5 回 公共事業評価委員会（県土整備部関係 事前評価）

日 時： 11 月 25 日（月） 14：00～17：00（予定） 場 所：栃木県庁 本館 6F 大会議室 1
 道 路 （国）408 号 真岡南バイパス
 街 路 小山栃木都市計画道路 3・3・3 号 小山栃木都賀線 栃木市大宮 審議案件 2 件
 道 路 （主）宇都宮鹿沼線 白桑田工区
 河 川 一級河川 荒川（塩谷）那須烏山市向田 報告案件 2 件

予備日： 1 月 22 日（水） 14：00～17：00（予定） 場 所：栃木県庁 本館 6F 大会議室 1

費用便益分析の算出方法

①_道路・街路事業

$$\text{費用便益比(B/C)} = \frac{\text{総便益(B)}}{\text{総費用(C)}}$$

$$\text{総便益(B)} = \text{B1} + \text{B2} + \text{B3}$$

	便 益 項 目	内 容
B1	走行時間短縮便益	道路の整備・改良によって、目的地までの走行時間が短縮したことで得られる便益。
B2	走行経費減少便益	道路の整備・改良によって、走行条件が改善され車両が要する走行経費(燃料費、タイヤ費、車両整備費等)が減少したことで得られる便益。
B3	交通事故減少便益	道路の整備・改良によって、交通事故による社会的損失(人的損害額、物的損害額、事故渋滞による損失額)が減少したことで得られる便益。

※ 当該事業の供用開始年から50年間の便益

$$\text{総費用(C)} = \text{C1} + \text{C2}$$

	費 用 項 目	内 容
C1	事 業 費	道路整備に要する事業費(工事費、用地費、補償費など)。
C2	維持管理費	道路供用開始から50年間の維持管理に要する費用。 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁、トンネル等の道路構造物の点検、補修に要する費用 ・巡回、清掃等に要する費用 ・除雪等に要する費用

費用便益分析の算出方法

② 河川事業

$$\text{費用便益比(B/C)} = \frac{\text{総便益(B)}}{\text{総費用(C)}}$$

$$\text{総便益(B)} = \text{B1} + \text{B2}$$

	便 益 項 目	内 容
B1	被害防止便益	堤防整備等の治水事業によって、洪水氾濫被害等の防止効果により得られる便益。(年平均被害軽減期待額により算出) <ul style="list-style-type: none"> ・家屋、家庭用品等の一般資産被害抑止効果 ・農産物等の資産被害抑止効果 ・公共土木施設等の資産被害抑止効果 ・事業所等の営業停止による稼働被害抑止効果 ・浸水後の清掃等による応急対策による事後的被害抑止効果
B2	残存価値	評価対象期間終了時点(施設完成後50年)における施設の残存価値

※ 当該事業の整備期間+施設完成後50年間の便益

$$\text{総費用(C)} = \text{C1} + \text{C2}$$

	費 用 項 目	内 容
C1	事業費	堤防整備等に要する事業費(工事費、用地費、補償費など)。
C2	維持管理費	堤防等の治水施設完成後から50年間の維持管理に要する費用。 <ul style="list-style-type: none"> ・堤防等の除草等に要する維持管理費 ・ポンプ等の運転経費 ・定期的に支出される設備交換に要する費用

再評価を実施する事業の一覧表(平成25年度 第1回)

No	事業区分	事業主体	路河川名等	箇所名	総事業費 (億円)	事業予定期間
1	河川	栃木県	一級河川 江川(烏山)	那須烏山市向田	4.3	H16~H28
2	河川	宇都宮市	準用河川 西川田川	宇都宮市西川田町	12.2	H16~H36
3	道路	栃木県	一般国道 400号	那須塩原市 下塩原バイパス	150.0	H16~H31
4	道路	栃木県	一般国道 408号	宇都宮市、高根沢町 宇都宮高根沢バイパス	112.1	H21~H32
5	街路	栃木県	宇都宮都市計画道路 3・2・101号大通り外1路線	宇都宮市 一の沢、駒生、桜	205.6	H16~H31

河川事業の再評価概要書

() は、当初計画時

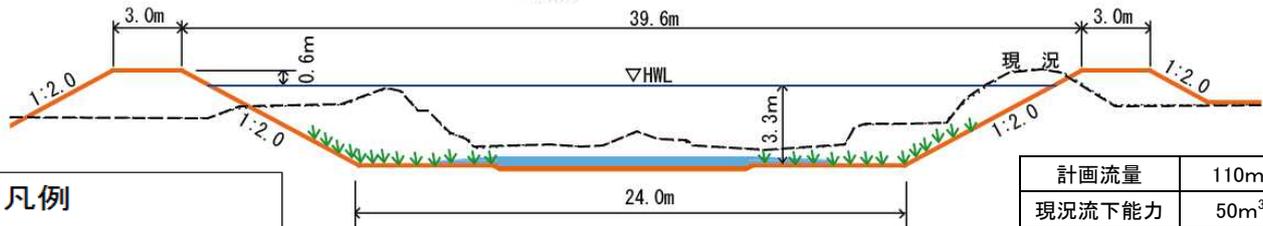
		番 号	1																
		事業主体	栃 木 県																
事業名	安全な川づくり事業		事業所管課	県土整備部 河川課															
路線・河川名	一級河川 <small>えがわ からすやま</small> 江川 (鳥山)		事業箇所名	<small>な す からすやまし むかだ</small> 那須烏山市 向田															
事業区間	<small>な す からすやましむかだ あらかわごりゆうてん</small> 那須烏山市向田 (荒川合流点) ～ <small>たま からすやませんかりゆう</small> 滝 (JR鳥山線下流)		事業延長	3,200m															
平成16年度事業化		平成17年度用地着手		平成17年度工事着手															
事業期間	(H20) H16年度 ～ H28年度		事業進捗状況	基準年次：【平成25年度末時点】 進捗率															
[うち用地補償費]	[0.7億円]		[うち用地補償費]	[0.5億円] [68%]															
全体事業費	4.3億円		既投資事業費	3.5億円 81%															
事業概要																			
<p>江川(鳥山)は、矢板市山田地先の里山に源を発し、<small>えんな</small>塩那丘陵を南東方向に流れ、さくら市を経て那須烏山市向田にて荒川に合流する一級河川である。</p> <p>江川(鳥山)の事業区間(荒川合流点からJR鳥山線下流)は、河川断面が狭小で流下能力が不足していることから、豪雨時には宅地や公共施設及び田畑に浸水被害が発生している。</p> <p>このため、河川断面の拡大を図り、氾濫を防止し浸水被害の解消を図る。</p>																			
事業を巡る社会経済情勢等の変化																			
特になし																			
事業の投資効果																			
1 費用対効果分析結果																			
<table border="0"> <tr> <td></td> <td></td> <td>【総便益(B)】</td> <td>【総費用(C)】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 事業全体</td> <td>B/C=4.0</td> <td>22.7億円</td> <td>5.7億円</td> <td>[L=3, 200m 区間]</td> </tr> <tr> <td>(2) 残事業</td> <td>B/C=1.2</td> <td>1.2億円</td> <td>1.0億円</td> <td>[L=2, 100m 区間]</td> </tr> </table>							【総便益(B)】	【総費用(C)】		(1) 事業全体	B/C=4.0	22.7億円	5.7億円	[L=3, 200m 区間]	(2) 残事業	B/C=1.2	1.2億円	1.0億円	[L=2, 100m 区間]
		【総便益(B)】	【総費用(C)】																
(1) 事業全体	B/C=4.0	22.7億円	5.7億円	[L=3, 200m 区間]															
(2) 残事業	B/C=1.2	1.2億円	1.0億円	[L=2, 100m 区間]															
2 事業の整備効果等																			
整備を図ることにより、宅地や公共施設及び田畑の浸水被害が軽減される。																			
事業の進捗状況等																			
1 事業の進捗状況																			
<p>事業延長3,200mのうち、<small>しんばし</small>新橋(一般国道294号)から<small>しのざわばし</small>篠沢橋までの約1,100mの整備が完了している。主な未整備区間は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川合流点から新橋(一般国道294号)までの約700m ・篠沢橋より上流の約1,100m ・JR鳥山線より下流の約300m 																			
2 今後の事業進捗の見込み																			
平成28年度事業完了を目標に、引続き河川整備を進める。																			
コスト縮減等																			
1 コスト縮減方策																			
工事で発生した残土を他事業に流用し、工事費の縮減に努める。																			
2 代替案立案等の可能性																			
残区間の整備については、実現性及びコスト等において、現河道の改修に優る代替案がないため、現計画が妥当である。																			
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。																	

事業箇所(位置図、概要図)

位置図



標準断面図



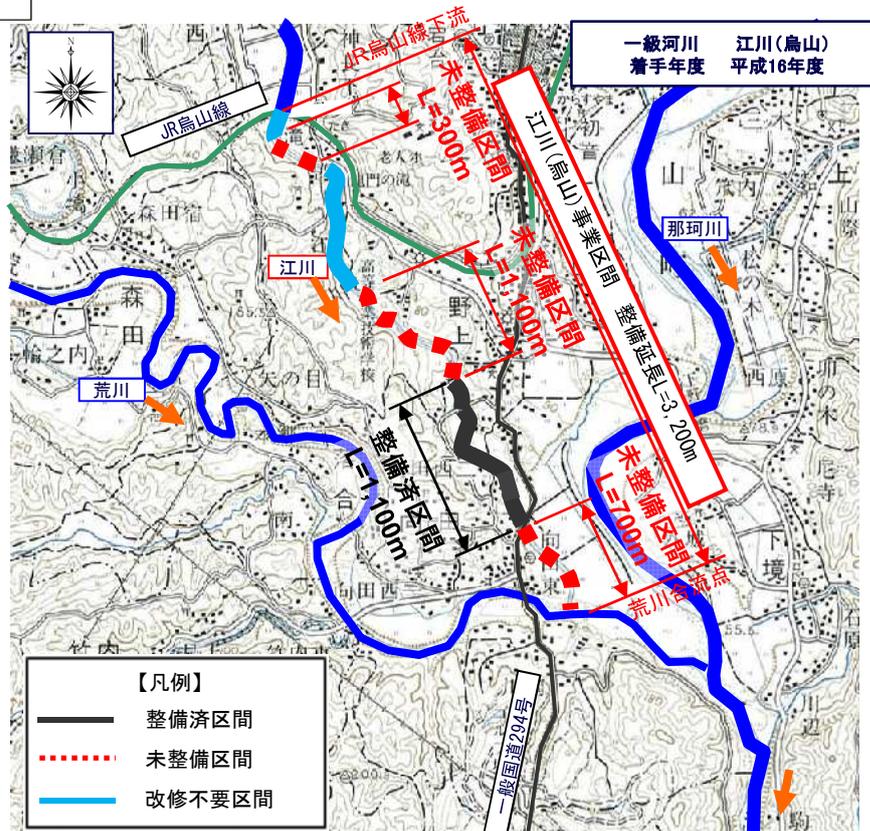
計画流量	110m ³ /s
現況流下能力	50m ³ /s

計画河床勾配 1/400

凡例

- 計画断面
- - - 現況断面

概要図



河川事業の再評価概要書

() は、当初計画時

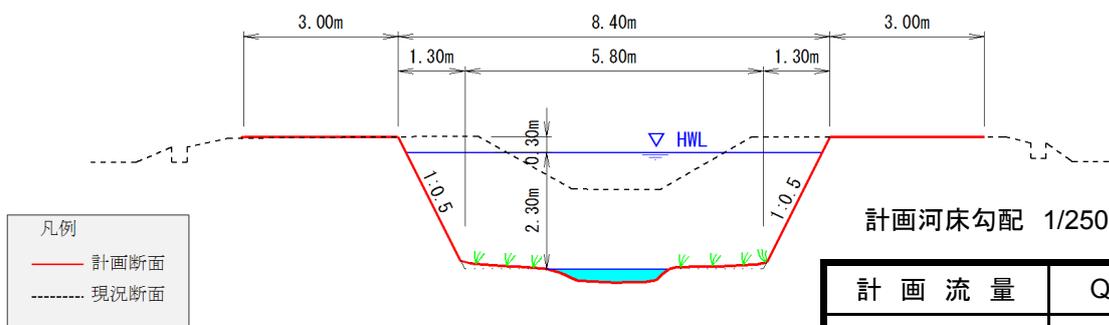
番号		2	
事業主体		宇都宮市	
事業名	準用河川整備事業 <small>じゅんようかせんせいびじぎょう</small>	事業所管課	宇都宮市 建設部河川課
路線・河川名	準用河川 西川田川 <small>じゅんようかせん にしかわだがわ</small>	事業箇所名	宇都宮市 西川田町 <small>じゅんようかせん にしかわだまち</small>
事業区間	宇都宮市針ヶ谷町地先 <small>うつのみやしはりがやちよう</small> ～西川田町地先 <small>にしかわだまち</small>	事業延長	2,980m
平成 16 年度事業化		平成 16 年度工事着手	
事業期間	H16 年度 ～ H36 年度	事業進捗状況	基準年次：【平成 25 年度末時点】
〔うち用地補償費〕 全体事業費	[- 億円] 12.2 億円		進捗率 〔うち用地補償費〕 [- 億円] [-] 既投資事業費 4.6 億円 38%
事業概要			
<p>西川田川は、宇都宮市の南西部に位置し、市の西部の八千代 2 丁目に源を發し、市南西部の水田地帯の用排水路として利用され、下野市にて一級河川新川に合流する準用河川である。</p> <p>西川田川の事業区間は、河川断面が狭小で流下能力が不足していることから、豪雨時には宅地や農地に浸水被害が発生している。</p> <p>このため、河川断面の拡大を図り、氾濫を防止し浸水被害の解消を図る。</p>			
事業を巡る社会経済情勢等の変化			
特になし			
事業の投資効果			
1 費用対効果分析結果			
		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
(1) 事業全体	B/C=1.6	19.1 億円	12.2 億円 [L=2,980m 区間]
(2) 残事業	B/C=2.2	13.2 億円	6.1 億円 [L=1,808m 区間]
2 事業の整備効果等			
整備を図ることにより、宅地や農地の浸水被害が解消される。			
事業の進捗状況等			
1 事業の進捗状況			
事業延長 2,980m のうち、下流下野市境の市道橋から <small>やすづかずめのみやせん</small> 県道安塚 雀 宮 線下流の取水堰まで 1,172m 区間の整備が完了している。			
2 今後の事業進捗の見込み			
平成 36 年度事業完了を目標に、引続き河川整備を進める。			
コスト縮減等			
1 コスト縮減方策			
工事で発生した残土を他事業に流用し、工事費の縮減に努める。			
2 代替案立案等の可能性			
残区間の整備については、実現性及びコスト等において、現河道の改修に優る代替案がないため、現計画が妥当である。			
事業の対応方針 (案)	現計画で事業を継続する。		

事業箇所(位置図、概要図)

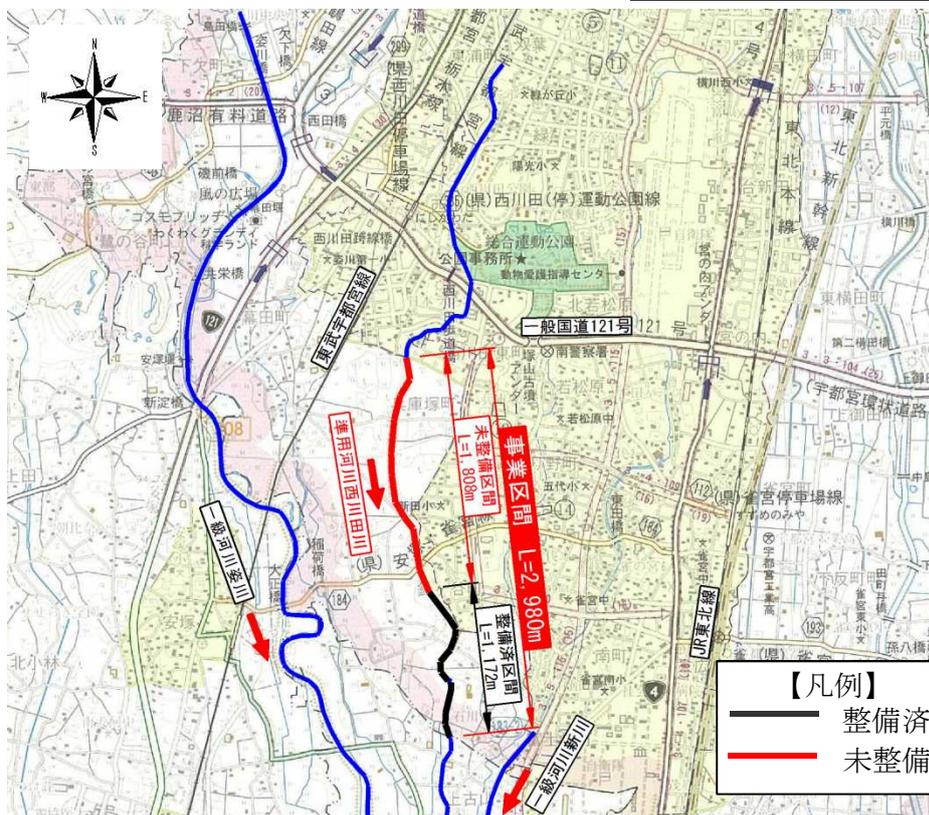
位置図



計画断面図



概要図



道路事業の再評価概要書

() は、当初計画時

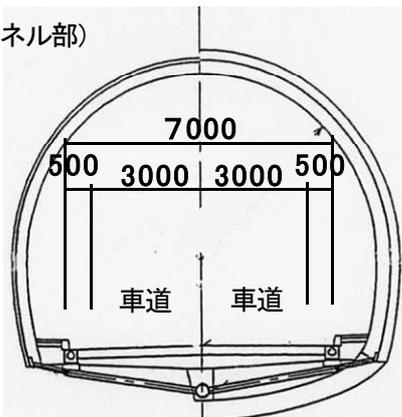
		番 号	3	
		事業主体	栃 木 県	
事業名	快適な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	一般国道 400号		事業箇所名	那須塩原市 下塩原バイパス
事業区間	那須塩原市 関谷 ～ 塩原		事業延長	4,600m
H16年度事業化		H17年度用地着手		H19年度工事着手
事業期間	(H28) H16年度～H31年度		事業進捗状況	基準年次：【平成25年度末時点】
[うち用地補償費]	[7.0 (3.0)億円]			進捗率
全体事業費	150.0 (150.0)億円			[うち用地補償費] [4.6億円] [66%] 既投資事業費 76.6億円 51%
事業概要				
<p>国道400号は那須塩原市・大田原市等本県の北部地域を横断し、福島県会津地域へ至る幹線道路であるとともに、塩原温泉郷へアクセスする道路として重要な路線である。</p> <p>しかし、本路線は急峻な地形のため台風や豪雨時には土砂流出や斜面崩落が発生し、本区間の大部分が連続雨量200mmで全面通行止めとなる異常気象時通行規制区間に指定されている。</p> <p>また、現道は幅員が狭く、急カーブが連続しているため、大型車のすれ違いが困難となっており、行楽期等に渋滞が発生し、交通の支障となっている。</p> <p>このため、安全・安心で円滑な交通を確保するとともに、本県の主要産業である観光の振興を図るため、トンネルを主体としたバイパスの整備を行うものである。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
特になし				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】	
(1) 事業全体		B/C = 1.1	170.2億円	148.2億円
(2) 残事業		B/C = 2.2	146.7億円	66.1億円
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象時の防災機能向上を図り、安全で円滑な交通の確保 ・急カーブおよび幅員の狭い箇所の解消による行楽期等の交通渋滞緩和 ・西那須野塩原ICから塩原温泉郷へのアクセス性強化による観光振興への寄与 				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・全体区間のうち、平成23年度に第1トンネル(がま石トンネルL=1,464m)を供用 平成24年度に第2橋梁が完成(未供用) ・現在第2トンネル本体工事を推進中 				
2 今後の事業進捗の見込み				
<ul style="list-style-type: none"> ・第2トンネルおよび第1橋梁の整備を推進 ・平成31年度に事業完了予定 				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
<ul style="list-style-type: none"> ・再生骨材、再生アスファルト合材を活用し、コストを縮減 				
2 代替案立案等の可能性				
<ul style="list-style-type: none"> ・トンネル・橋梁等、主要構造物の工事に着手しており、代替案の計画は困難 				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

事業箇所 (位置図・概要図)

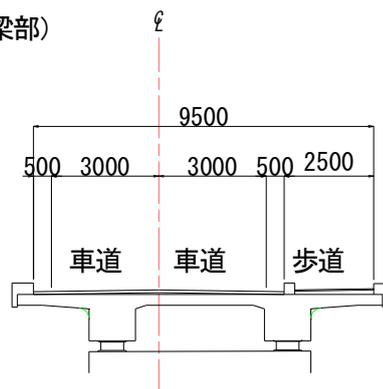


標準横断面図

(トンネル部)



(橋梁部)



概要図

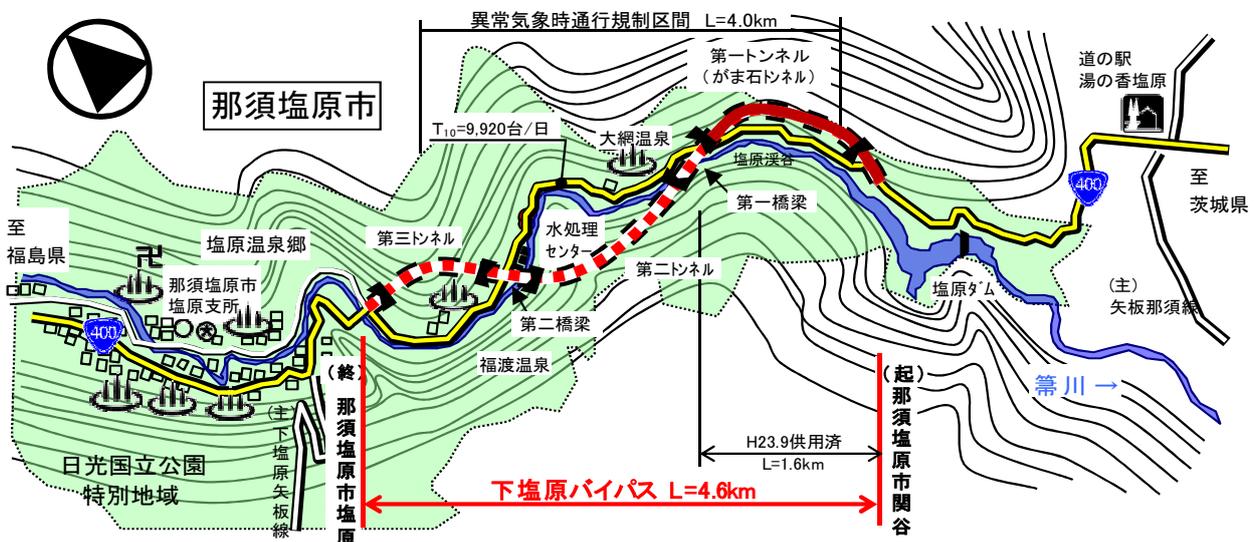




写真 1 : 大型車両すれ違い困難状況



写真 2 : 現道渋滞状況



写真 3 : 供用済区間 (がま石トンネル)

道路事業の再評価概要書

番号

4

事業主体

栃木県

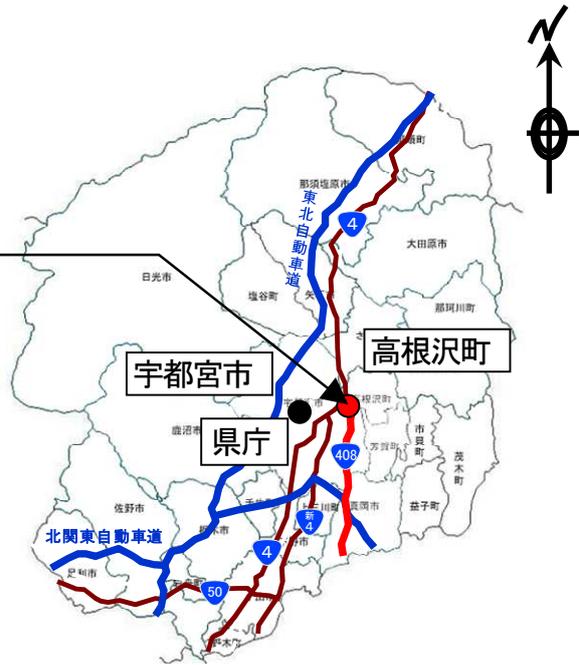
() は、当初計画時

事業名	快適な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課	
路線・河川名	一般国道 408号		事業箇所名	宇都宮市、高根沢町 宇都宮高根沢バイパス	
事業区間	宇都宮市野高谷町～高根沢町宝積寺		事業延長	6,600m	
H21年度事業化		H22年度用地着手		H24年度工事着手	
事業期間	(H28) H21年度～H32年度	事業 進捗 状況	基準年次：【平成25年度末時点】		
[うち用地補償費] 全体事業費	[36.2 (40.0) 億円] 112.1 (95.0) 億円		進捗率		
			[うち用地補償費] 既投資事業費	[19.6 億円] 27.2 億円	[54%] 24%
事業概要					
<p>一般国道408号宇都宮高根沢バイパスは、「新とちぎ元気プラン」においてスカイコリドールに位置付けられており、真岡宇都宮バイパス等とともに常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ延長約100kmの地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する広域幹線道路である。</p> <p>現道の沿線には清原工業団地をはじめとする工業団地群が集積することから、大型車交通量も多く、本県の産業活動を支える重要な路線である。</p> <p>しかし、現道は2車線の狭く曲がりくねった道路であることから、各所において渋滞が発生しており、また、交通事故も多発している状況である。</p> <p>このため、広域的な道路ネットワークを構築し、交通の円滑化を図るため、4車線のバイパス整備を行うものである。なお、事業効果の早期発現のため、当面は暫定的に2車線での整備を行い、交通量の推移を見ながら4車線化を図ることとする。</p>					
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
特になし					
事業の投資効果					
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】		
(1) 事業全体 B/C= 1.9		190.8 億円	102.8 億円		
(2) 残事業 B/C= 2.5		190.8 億円	76.7 億円		
2 事業の整備効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞緩和による交通の円滑化 ・現道交通のバイパスへの転換による交通事故の減少 ・北関東自動車道真岡ICや東北自動車道矢板ICへのアクセス強化による産業活動の支援 					
事業の進捗状況等					
1 事業の進捗状況					
<ul style="list-style-type: none"> ・1期工区 (3.6km) は、用地取得及び工事を推進中 ・2期工区 (1.7km) は、用地取得を推進しており、平成25年度に工事に着手 					
2 今後の事業進捗の見込み					
<ul style="list-style-type: none"> ・1期工区 (3.6km) は、平成28年度に暫定2車線での供用を図る。 ・2期工区 (1.7km) は、平成30年度に暫定2車線での供用を図る。 ・3期工区 (1.3km) は、平成32年度に暫定2車線での供用を図る。(全線供用) 					
コスト縮減等					
1 コスト縮減方策					
<ul style="list-style-type: none"> ・道路構造を高盛土形式から地表式に変更し、コストを縮減 ・再生骨材、再生アスファルト合材を活用し、コストを縮減 					
2 代替案立案等の可能性					
<ul style="list-style-type: none"> ・50%超の用地を取得しており、工事にも着手済みであることから、代替案立案は困難 					
事業の対応方針 (案)		現計画で事業を継続する。			

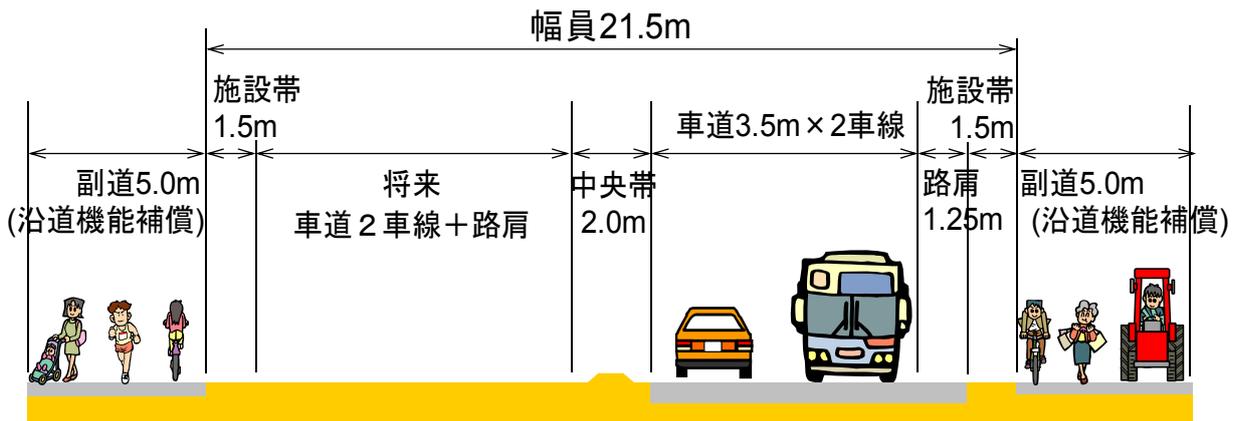
事業箇所（位置図・概要図）

位置図

一般国道408号 宇都宮高根沢バイパス



標準横断図



概要図

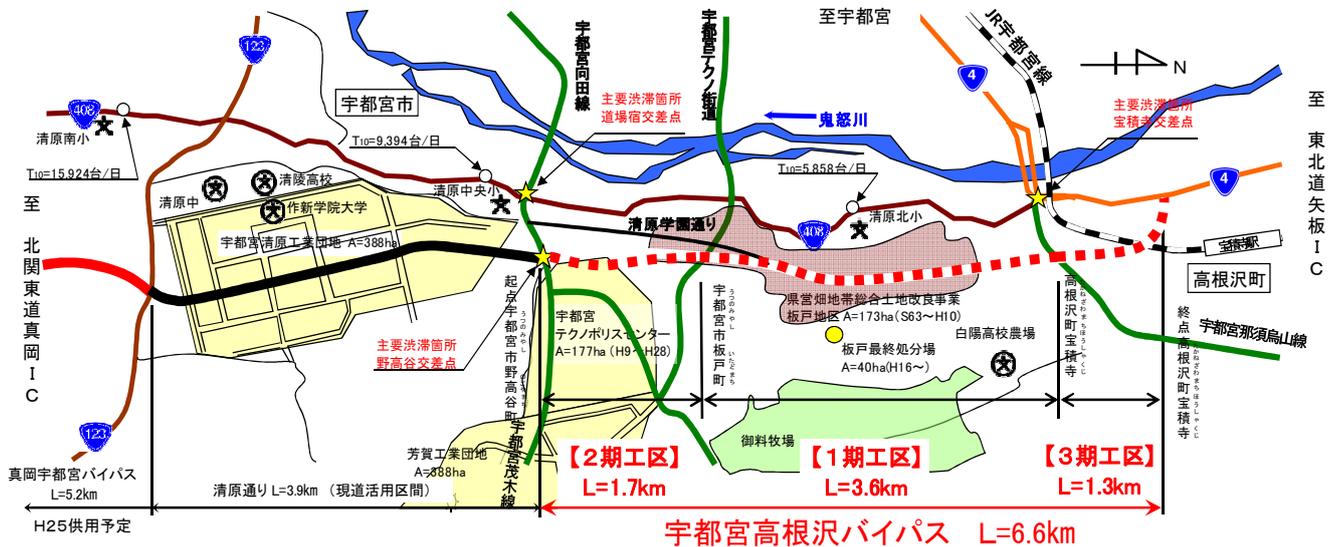




写真 1 : 現道の状況 (道場宿交差点 : 南進)



写真 2 : 現道の状況 (1期工区の並行区間)



写真 3 : 周辺道路の状況 (清原学園通り)

街路事業の再評価概要書

番 号

5

事業主体

栃 木 県

()は当初計画時

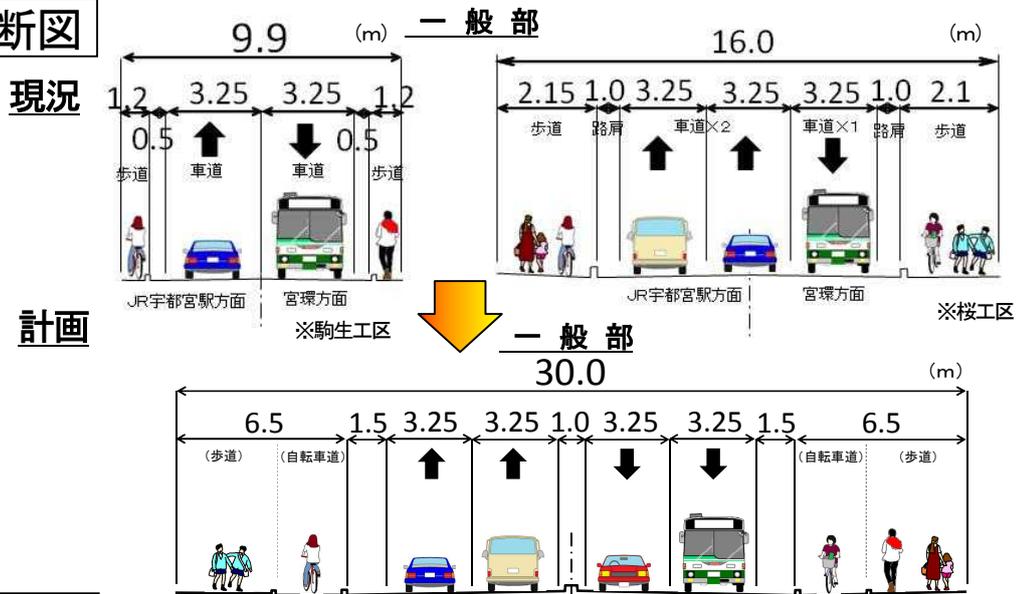
事業名	街路づくり事業		事業所管課	県土整備部 都市整備課	
路線・河川名	宇都宮都市計画道路 3・2・101号 大通り外1路線		事業箇所名	宇都宮市 一の沢 (1期工区) 駒生 (2期工区) 桜 (3期工区)	
事業区間	宇都宮市桜5丁目～駒生2丁目 (通称:大谷街道 桜通り～宮環)		事業延長	3・2・101号 大通り 2,147m 3・4・1号 宇都宮栃木線 520m	
H16年度事業化	S7都市計画決定 (H13、H15年度変更)		H16年度用地着手	H19年度工事着手	
事業期間	(H25) H16年度～H31年度		事業進捗状況	基準年次:【平成25年度末時点】	
[うち用地補償費]	[162.1(160)億円]			進捗率	
全体事業費	205.6(190)億円		[うち用地補償費]	[98.8億円] [61%]	
			既投資事業費	122.6億円 60%	
事業概要					
<p>宇都宮都市計画道路3・2・101号大通りは、JR宇都宮駅から都市機能が集中する中心市街地を貫くメインストリートであり、宇都宮市西部地域に至る総延長約6.3kmの宇都宮都市圏の都市骨格の中核を担う大動脈である。また、「宇都宮都市圏都市交通マスタープラン」において宇都宮都心を中心とした3環状12放射道路の主要な放射道路を担う幹線道路である。</p> <p>事業箇所は、商業・業務施設が集積し多くの文教施設が隣立する区間であり、自動車交通はもとより、自転車、歩行者、路線バスも非常に多く、交通の要衝として重要な役割を担っている。</p> <p>しかし、事業区間は、車線数が不足し歩道幅員も狭いことから、慢性的な交通渋滞が発生し、朝夕の通勤通学時間帯は自動車、自転車・歩行者が錯綜するという非常に危険な状況にある。</p> <p>このため、4車線化や交差点改良、歩道等の拡幅、バス停留所の整備により交通混雑の緩和と自転車・歩行者の安全で快適な通行空間の確保を図り、良好な都市空間の創出を図るものである。</p>					
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
<ul style="list-style-type: none"> 近年の自転車と歩行者との事故急増に伴い自転車施策が見直されている。本事業箇所は県内屈指の自転車交通量であることから、国のガイドラインを踏まえ自転車道と歩道を分離した整備を行う計画である。 					
事業の投資効果					
1 費用対効果分析結果		【総便益(B)】		【総費用(C)】	
(1)事業全体 B/C = 1.3		260.1億円		199.9億円	
(2)残事業 B/C = 3.1		214.4億円		70.0億円	
2 事業の整備効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 放射道路の骨格強化による都市機能の向上 円滑な交通機能や路線バスの定時性の確保 歩行者・自転車の安全で快適な通行空間の確保 救急救命活動や都市防災機能の強化 					
事業の進捗状況等					
1 事業の進捗状況					
<ul style="list-style-type: none"> 一の沢工区の約700m区間を供用し、道路利用者の快適性や交差点の安全性が改善された。 現在、駒生工区と桜工区の用地取得を推進するとともに、駒生工区の工事に着手したところである。 					
2 今後の事業進捗の見込み					
<ul style="list-style-type: none"> 今後も用地取得を推進し、工事に必要な一連区間の用地が確保できたところから順次工事を進め、平成31年度を目標に事業完了を図る。 					
コスト縮減等					
1 コスト縮減方策					
<ul style="list-style-type: none"> 電線類の地中化整備において、コンパクトで簡便な浅層埋設方式を採用し土工や仮設工を大幅に削減 					
2 代替案立案等の可能性					
<ul style="list-style-type: none"> 既に約6割の用地を取得して主要な幹線道路との交差点区間を供用開始しており、都市の骨格を形成する「放射道路」として都市計画の諸手続きを経て整備しているため、代替案立案は困難である。 					
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。			

事業箇所 (位置図・概要図)

位置図



標準横断面図



概要図



一の沢工区 整備前の護国神社前交差点付近渋滞状況



一の沢工区 整備後の護国神社前交差点付近供用状況



駒生工区・桜工区の整備前の通勤通学時間帯の交通状況



※駒生工区



※桜工区